

ヴィレッジ・プロデュース2013

『断色』

～danjiki～



作 青木 豪

演出 いのうえひでのり

出演 堤 真一 麻生久美子 田中哲司

2013年6月14日(金)～7月7日(日) 青山円形劇場

www.dan-jiki.jp

御挨拶

日頃は弊社公演に、ご支援ご配慮賜り誠にありがとうございます。

さて、『断色』^{だんじき}です。

この企画は二年ほど前、『断食』^{だんじき}という公演に私が関わったところから始まりました。稽古場で通しを見た私は、「あ！」と閃きました。

「そうだ、母の芝居を作ろう。」

そして、作家の青木豪君に「マザー・コンプレックスの話にリライトして欲しい。」とお願いしました。青木君は「実は私が芝居に目覚めたのは、母のおかげです。喜んで。」と答えてくれました。私も今日このような仕事を生業しているのは、間違いなく文学好きだった母の影響・遺伝だと思っています。

母は五年前に亡くなりましたが、最晩年、ほんの少しだけ親孝行ができたような、足りなかったような。そんな思いが私をこの芝居に駆り立てました。後悔はありませんが、未練は残ります。亡くなった人への思いは、いつもそうしたものかもしれません。母の葬儀は質素なもので、わずかに集まってくれた親戚、縁者の方々へのかしこまった喪主挨拶ができませんでした。この場を借りての個人的な挨拶をお許してください。

「かあちゃん、ありがとう！」

『断食』公演のスタッフ・キャストに改めて感謝しつつ、この芝居を通して、誰にもある『母と子の絆』に思いを馳せていただければ幸いです。

エグゼクティブプロデューサー

ヴィレッチ 細川展裕

公演紹介

人間の奥に潜む濃密な想いを暴きだす。
出演者は三人。青山円形劇場。
濃密な空間で濃密な芝居を……。

クローン保険によって起こる母親と息子の複雑な関係……
それは家族愛なのか、人間愛なのか、それとも……

作は2012年「往転一オウテン」の演出で第66回文化庁芸術祭新人賞を受賞した、作家であり演出家でもある青木 豪。演出は人気の劇団☆新感線の主宰であり、強烈な演出で多くの観客を30年以上も魅了し続けているいのうえひでのりです。

本作は、2011年に旗揚げされた演劇ユニット“おにぎり”の為に青木が初めて書き下ろしたSF作品『^{だんじき}断食』(出演：村木 仁、池谷のぶえ、市川しんぺー/座・高円寺1)をベースに、テーマをより明確に母子の関係性を際立たせ、タイトルも『^{だんじき}断色』と改めてさらに練り上げた作品です。演出のいのうえも『断食』に続き、今回の『断色』を演出。作品の面白さと手ごたえを感じ、再び本作に挑みます。

母の死によって知らされる母のクローンの存在。
母でありながら母ではない人格によって、息子とクローン保険会社の保険外交員は翻弄され……

近い未来に起こるかもしれないクローンによる混沌とした人間関係が、無骨かつ力強い言葉で描かれ、序盤から伏線を巧みに見せ、青木が綴るスピーディーで緊迫感に溢れる展開と結末は見る者の心をえぐります。そしていのうえが、その特色でもあるエンターテインメントに特化した下派手な仕掛けや舞台演出をそぎ落とし、限られた円形の小劇場で、どのように青木が綴る濃密な世界に挑むのか……。

3人の名優たちと作る濃密な空間で濃密な舞台『断色』にご期待ください。

堤 真一、麻生久美子、田中哲司 エネルギーで魅力的な俳優が登場！

出演の一人目は堤 真一。舞台俳優として名演出家の作品から、海外の戯曲、劇場の規模を問わず数多くの作品に出演しキャリアを確立。いのうえひでのり作品には、01年の「野獣郎見参」以降、今年4月の「今ひとたびの修羅」まで5作品に出演している。映像でも映画・ドラマ・CM・ナレーションと各分野でその存在感を知らしめており、映画「ALWAYS～三丁目の夕日」(05)では第29回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞他多数、08年は「クライマーズ・ハイ」にて第32回日本アカデミー賞優秀主演男優賞、「容疑者Xの献身」で同賞の優秀助演男優賞を受賞。人気・知名度も併せ持つ実力派俳優としてその地位を確立している。

二人目は麻生久美子。98年、映画「カンゾー先生」で無垢なヒロインを演じ、第22回日本アカデミー賞最優秀助演女優賞した他、国内の新人賞を総なめし話題に。その後、数々の映画作品に出演し、近年の映画「グッモーエビアン！」(12)では元パンクロッカーのシングルマザー、TVドラマ「時効警察」(EX/06/07)、「泣くな、はらちゃん」(NTV/13)などではコメディを演じるマルチ女優である。07年から現在も継続しているCM「ヤマサ醤油」などで見る爽やかな演技で茶の間で彼女の笑顔を見る機会も多い。意外にも、舞台は「スプーンフェイス・スタインバーグ」(10)、「マレーヒルの幻影」(09)に続き今回が三度目という。

三人目は田中哲司。舞台・映像・CMと多岐に渡る活動をしている。「龍馬伝」(NHK/10)で暴君の徳川慶喜、「SPEC」(TBS/10)ではレモンをかじり予言する超人気占い師、「ATARU」(TBS/12)では“○○なのね”が口癖の警視庁鑑識課役など強烈なキャラクターを演じると思いきや、CM「インテル マグロ篇」や「メルセデス・ベンツ Eクラス」では優しい父親役に変身する。また、「サントリーBOSS レインボーマウンテンブレンド”宇宙人ジョーンズ・医師”篇」ではトミー・リー・ジョーンズを迎えに来る役所職員と、変幻自在に役を演じるカメレオン俳優だ。劇団☆新感線「港町純情オセロ」(11)にて青木&いのうえ作品に参加している。

【情報告知・取材に関するお問合せ】 ディップス・プラネット 草場千春・村田綾子・大山雅子

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656 mail/pr@dipps.co.jp

あらすじ

処分にするか、解放にするか？

時は近い未来。

自然農法の畑作を行う小杉保（堤 真一）の母・小杉朝子（麻生久美子）が腎臓ガンで亡くなり、まもなく保のもとに怪しげな保険外交員の刈谷（田中哲司）がやってくる。

「お母様は生前、自身のクローンをお作りになりました。クローンの移植手術は行われましたが合併症により移植の痛みもなくお亡くなりになりました。」

母・朝子はクローン保険に入っていたのだ。

「残されたクローンは処分にするか、解放にするか？」

刈谷の質問に「え、どうゆうこと？」と困惑する保。

保険で作られたクローンは本人が亡くなることによって、殺されるか、普通の生活を営むかの選択をしなければならなかった。

母親の遺した保険が、保を奇妙な運命へと導いていった。

スタッフ

作 青木 豪

Aoki Go

1967年4月12日 神奈川県出身

演劇集団円・演劇研究所卒業後、97年に「アフタースクール」で劇団グリーンを旗揚げ。以後09年の活動休止まで全18公演の作・演出を務める。日常の些細な出来事や、他愛もない会話の積み重ねからキャラクターを浮き彫りにする手法で評判を呼んだが、近年では幅広い作風に挑んでいる。グリーン以外の主な舞台には、作・演出に「ゆすり」(08)、「東風」(05/鶴屋南北戯曲賞ノミネート)、「猿のゆりかご」(06/第51回岸田戯曲賞最終候補作品)、脚本に「ガラスの仮面」(10)、「渴いた人々は、とりあえず死を叫び」(09)、「流星ワゴン」(06)、「エスペラント～教師たちの修学旅行の夜～」(06/鶴屋南北戯曲賞ノミネート)、「エデンの東」(05)など。映画では「遠くの空に消えた」(07)で脚本協力、NHK FMシアター「リバイバル」でABU賞受賞と、その活動は多岐に渡っている。また、12年「往転-オウテン」で第66回文化庁芸術祭新人賞受賞。09年に脚本を手がけたHTBスペシャルドラマ「ミエルヒ」では第47回ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞など数多くの賞を受賞した。いのうえとは「鉈切り丸」(13・10上演予定)、『断食』(11)、「港町純情オセロ」(10)、「IZO」(08)がある。

演出 いのうえひでのり

Inoue Hidenori

1960年1月24日 福岡県出身

80年劇団☆新感線を旗揚げ。以降、ドラマ性に富んだ外連味たっぷりの時代活劇の「いのうえ歌舞伎」「髑髏城の七人」(90/97/04/11)、「野獣郎見参」(01)、「アテルイ」(02)、「朧の森に棲む鬼」(07)、「シレンとラギ」(12)、生バンドが舞台上で演奏する音楽を前面に出した「R シリーズ」「SIHROH」(04～05)、「メタル マクベス」(06)、「五右衛門ロック」(08)、「薔薇とサムライ～GoemonRock OverDrive」(10)、「ZIPANG PUNK～五右衛門ロックⅢ」(12-13)、作・演出を行う笑いをふんだんに盛り込んだ「ネタもの」「直撃！ドラゴンロック 3～轟天対エイリアン」(01)、「犬顔家の一族の陰謀～金田真一耕介之介の事件です。ノート」(07)、「レッツゴー！忍法帖」(03～04)、「鋼鉄番長」(10)など、エンターテインメント性に溢れた多彩な作品群で「新感線」という新たなジャンルを確立させた。劇団の本公演以外では「鉈切り丸」(13・10上演予定)、「今ひとたびの修羅」(13・4上演予定)、「ロッキー・ホラー・ショー」(11～12)、『断食』(11)、「怪談 牡丹燈籠」(09)、初めて本格的にシェイクスピア作品に取り組んだ「リチャード三世」(08～09)、「TOMMY」(07)などプロデュース公演の演出も多数手がけている。受賞歴は、第14回日本演劇協会賞(「髑髏城の七人」「SIHROH」の演出において)、第9回千田是也賞(「メタル マクベス」の演出において)、第61回芸術選奨文部科学大臣新人賞。

キャスト



堤 真一 Tsutsumi Shinichi 1964年7月7日 兵庫県出身

舞台俳優として、デヴィッド・ルヴォー、野田秀樹、蜷川幸雄といった名演出家の作品や、劇団☆新感線の作品などに出演し、キャリアを重ねる。さらにテレビドラマ、映画でも存在感を発揮、ナレーションでも活躍。いのうえひでのり演出作には「今ひとたびの修羅」(13・4 上演予定)、「蜚蜚峠」(09)、「吉原御免状」(05)、「アテルイ」(03)、「野獣郎見参」(01)など。ほか主な出演作に、舞台「TOPDOG/UNDERDOG」 「シダの群れ」 「寿歌」(12)、「K2」 「アット・ホーム・アット・ザ・ズー」(10)、「人形の家」(08)、「欲望という名の電車」(02)。「ピアノ」、「キル」(94)で第32回紀伊國屋演劇賞個人賞。映画「俺はまだ本気出してないだけ」(13・6 公開予定)、「ALWAYS 三丁目の夕日'64」 「宇宙兄弟」(12)、「プリンセスヨトミ」(11)、「孤高のメス」(10/第34回日本アカデミー賞 優秀主演男優賞)、「容疑者Xの献身」(08/第32回日本アカデミー賞優秀助演男優賞)、「クライマーズ・ハイ」(08/第32回日本アカデミー賞優秀主演男優賞)、「ALWAYS 続・三丁目の夕日」 「舞妓 Haaaan!!!」(07)で第31回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞、「ALWAYS～三丁目の夕日」 「フライ,ダディ,

フライ」(05)で第30回報知映画賞最優秀助演男優賞、第48回ブルーリボン賞助演男優賞。TVドラマ「とんび」(NHK/12)、「再会」(CX/12)、「SP」(CX/07～11)、「セーラー服と機関銃」(TBS/06)。CMでは、「LIXIL "リクシルって知ッテル?" 篇 他」、大正製薬「ナロンエース R」、DAIHATSU「ミライース」、アサヒ「ゼロカク」など多数。



麻生久美子 Aso Kumiko 1978年6月17日 千葉県出身

CM出演などを経て、95年の「BAD GUY BEACH」で映画デビュー。映画「カンゾー先生」(98)でヒロインを演じ第22回日本アカデミー賞最優秀助演女優賞ほか新人賞など国内の映画賞を総なめし話題に。その後次々と映画作品に出演。07年の「夕風の街桜の国」では第32回報知映画賞最優秀主演女優賞、第50回ブルーリボン賞主演女優賞、第62回毎日映画コンクール女優主演賞を受賞。近年では「舟を編む」(13・4・13 公開)、「ばしゃ馬さんとビッグマウス」(13・秋公開予定)、「グッモーエビアン!」 「宇宙兄弟」(12)、「モテキ」(11/第35回日本アカデミー賞 優秀助演女優賞) 「インスタント沼」 「おと・な・り」(09)、「アキレスと亀」 「純喫茶磯辺」(08)、「ハーフェズ ペルシャの詩」(08/イラン映画)、「THE 有頂天ホテル」(06)、「ハサミ男」(05)、「Short Films」 「eiko エイコ」(03)、「命」(02)、「回路」(01)、「ひまわり」 「リング0～バースデイ～」(00)、TVドラマ「泣くな、はらちゃん」(NTV/13)、「チェイス～国税査察官～」(NHK/11)、「時効警察」(EX/06/07)、大河ドラマ「新選組!」(NHK/04)、CM「ヤマサ醤油・鮮度の一滴」(07～現在)、「イオン・セレブレートスーツ」(11)、「サッポロビール・オフの贅沢」(09)など多数。舞台は「スプーンフェイス・スタインバーグ」(10)、「マレーヒルの幻影」(09)に出演。



田中哲司 Tanaka Tetsushi 1966年2月18日 三重県出身

ジャンルを問わず多岐に渡り出演。主な出演作に、舞台「浮標」(12/11)、「港町純情オセロ」(11)、「ザ・キャラクター」(10)、「パイパー」(09)、「SISTERS」(08)、「ビューティー・クイーン・オブ・リターン」(07)、「城」(05)、「ワニを素手でつかまえる方法」(04)、「欲望という名の電車」(01)、TVドラマ「夜行観覧車」(TBS/13)、「ATARU」(TBS/12)、「悪夢ちゃん」(NTV/12)、「遺留捜査」(EX/12)、「罪と罰」(WOWOW/12)、「開拓者たち」(NHKBS プレミアム/12)、「ラストマネー」(NHK/11)、「華和家の四姉妹」(TBS/11) 「外交官・黒田康作」(CX/11)、「SPEC～警視庁公安部公安第五課 未詳事件特別対策係事件簿～」(TBS/10)、「龍馬伝」(NHK/10)、映画「ストロベリーナイト」(13)、「アウトレイジ ビヨンド」(12)、「八日目の蟬」 「白夜行」(11)、「死刑台のエレベーター」(10)、「HAPPY FLIGHT」 「Sweet Rain 死神の精度」 「歓喜の歌」(08)、「それでもボクはやっていない」 「魂萌え!」 「クロード・ノート」 「遠くの空に消えた」 「パッチギ! LOVE&PEACE」(07)、「花よりもなほ」 「水の花」(06)、「夢の中へ」 「スクラップ・ヘブン」(05)、「着信アリ」 「この世の外へ クラブ進駐軍」 「海猿 UMIZARU」(04)、「贅沢な骨」 「GO」(01)、「ひまわり」(00)、CM「メルセデス・ベンツ E クラス」 「サントリー-BOSS レインボーマウンテンブレンド "宇宙人ジョーンズ・医師" 編」 「ネクスティア生命」 「明治XYLISH "はじまり" 篇」 「大塚製薬(SOYSH)」など多数。

公演概要

公演名称 ヴィレッヂ・プロデュース 2013 「断色～danjiki～」
 作 青木 豪
 演出 いのうえひでのり（劇団☆新感線）
 出演 堤 真一 麻生久美子 田中哲司
 公式サイト www.dan-jiki.jp
 主催・企画製作 ヴィレッヂ

公演期間 2013年6月14日(金)～7月7日(日)

会場 青山円形劇場

公演スケジュール

※全28回公演/開場は開演の30分前

	6/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
14:00		◇	◇	休		◇	◇		◇	◇	休	
18:30	◇	◇		演	◇	◇		◇	◇		演	◇
	26	27	28	29	30	7/1	2	3	4	5	6	7
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00	◇	◇		◇	◇	休		◇	◇		◇	◇
18:30	◇		◇	◇		演	◇	◇		◇	◇	

チケット料金 ¥6,800（全席指定・税込） ヤングチケット¥2,000

※ヤングチケット…22歳以下対象。開演30分前から整理番号順で年齢明記の身分証提示の上、座席指定券と引換。公式サイト (<http://www.dan-jiki.jp>) での限定販売【発売日 4/21(日) 10:00am～】。1人1枚まで。

チケット発売日 2013年4月21日(日) 10:00am～

プレイガイド サンライズオンライン <http://sunrisetokyo.com> (パソコン・携帯)

チケットぴあ <http://pia.jp/t/dan-jiki> (パソコン・携帯)

0570-02-9999 (Pコード: 427-259)

0570-02-9565 (4/21のみ)

イープラス <http://eplus.jp/dan-jiki> (パソコン・携帯)

ローソンチケット <http://l-tike.com/dan-jiki> (パソコン・携帯)

0570-000-407、0570-084-003(Lコード: 33001)

0570-084-635 (4/21のみ)

お問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

【美術】池田ともゆき 【音楽】岡崎 司 【音効】末谷あずさ 【映像】上田大樹 【衣裳】小原敏博 【ヘアメイク】宮内宏明
 【演出助手】芳谷 研 【舞台監督】南部 丈 【宣伝・公式サイト制作運営】ディップス・プラネット 【宣伝】浅生博一
 【票券・広報】脇本好美 【制作デスク】小池映子 【制作助手】山岡まゆみ 【制作補】辻 未央 【制作】柴原智子
 【エグゼクティブプロデューサー】細川展裕

【情報告知・取材に関するお問合せ】 ディップス・プラネット 草場千春・村田綾子・大山雅子

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656 mail/pr@dipps.co.jp